

## 1. 労働者の自殺予防対策に関する文献研究

### A. 研究目的

わが国においては、平成 10 年に労働者の自殺が急増して以来、一向に減少する傾向が見えないため労働者の自殺予防対策の確立は緊急の行政課題であると考えられる。自殺予防対策等の介入研究においては、その効果評価を適切に行うことが重要である。そこで、労働者に対する自殺予防対策の効果評価がどのように行われているかを検討するために、国内外の労働者の自殺予防対策に関する文献を抽出し、文献研究を行うこととした。

### B. 研究方法

医中誌 Web を用いて、1983 年以降の文献を対象に、自殺、予防、職場／職域をキーワードとして検索を行った。また、PubMed (MEDLINE) および PsycINFO を用いて、1983 年以降の文献を対象に、suicide, prevention, workplace をキーワードとして、英語または日本語で執筆された文献を検索した。

### C. 研究結果

医中誌 Web を用いて検索を行った結果、93 件の文献が抽出された。1998 年の自殺者数の急増以降、文献数が増加していた(表 1)。また、PubMed (MEDLINE) を用いて検索を行った結果、16 件の文献が抽出された。PsycINFO を用いた検索では、文献は抽出されなかった。抽出された 109 件の文献リストを表 2 に示す。

### D. 考察

抽出された文献は、主に自殺リスクの検

討、自殺予防対策の立案、自殺予防マニュアルの作成に関する文献であり、実際に職場における自殺予防対策の効果評価を行った研究は含まれていなかった。これは、日本、アメリカ、フィンランド、スウェーデン、イギリス、フランス、オーストラリア、中国など様々な国において国家レベルによる自殺予防対策が実施されている<sup>1)</sup>ものの、いずれも対象を職場に限定した対策でないためであろう。また、就業者の自殺例の 7 割はうつ病が原因であると推測されている<sup>2)</sup>こと、自殺予防だけを目的とした活動を推進することは多くの職場で受け入れられにくく、メンタルヘルス対策に盛り込む形で推進されることが妥当であると考えられていること<sup>3)</sup>なども理由であると思われる。職場において自殺予防を目的とした対策の効果評価を行った例として、アメリカ空軍の自殺予防プログラムが挙げられる。アメリカ空軍では、1990 年から 1995 年における軍人の自殺率増加を受けて、1996 年から自殺予防プログラムを実施した(表 3)<sup>4)</sup>。コホート研究の追跡対象となった者は 5,260,292 人であった。研究開始前(1990～1995)と研究開始後(1997～2002)の自殺率を比較すると、自殺率は 33%の減少を示した。また、家庭内暴力は 54%、殺人は 51%、事故は 18%の減少を示した。このように、援助を求めてもよいというように規範を変える、自殺予防の研修を組み入れるなどの体系的な介入方法により、自殺率および暴力関連指標の減少が認められた。アメリカ空軍は一般の職場とは異なる特徴を持つものの、このプログラムには一般集団を対象とした方策とハイリスク者を対象とした方策の 2 つが盛り込まれており、一般

の職場にも適用可能な内容が多く含まれている。

## 2. 自殺予防対策に関する文献研究

### A. 研究目的

1 の結果を受けて、対象文献を職場に限定せずに再検索し、国内外の自殺予防対策に関する文献を抽出し、文献研究を行うこととした。

### B. 研究方法

医中誌 Web を用いて、1983 年以降の文献を対象に、自殺予防プログラム／自殺予防対策をキーワードとして検索を行った。また、PubMed（MEDLINE）および PsycINFO を用いて、1983 年以降の文献を対象に、“suicide prevention program(s)” “suicide prevention manual(s)” をキーワードとして、英語または日本語で執筆された文献を検索した。

### C. 研究結果

医中誌 Web を用いて検索を行った結果、43 件の文献が抽出された。また、PubMed（MEDLINE）を用いて検索を行った結果、104 件の文献が抽出された。PsycINFO を用いて検索を行った結果、168 件の文献が抽出された。これより、異なるデータベースにより重複して抽出された文献および国内に所有機関のない雑誌を除外した結果、文献数は 239 件となった。抽出された 239 件の文献リストを表 4 に示す。さらに、「労働者の自殺原因に関する研究」において作成された構造化抄録を参考に、現在 90 件の文献に関する抄録を作成した（別添資料 1）。

そのうち、職域（勤労者）を対象とした

文献が 12 件、地域（地域住民）を対象とした文献が 52 件、学校領域（青年）を対象とした文献が 15 件、医療領域を対象とした文献が 10 件、留置所（囚人）を対象とした文献が 4 件であった。

提示された自殺予防対策を各領域別にまとめた（表 5）。職域では、メンタルヘルス対策の実施、社外・社内スタッフの連携などがあげられた。地域では、サービス提供機関・医療機関・地域住民の連携、相談・支援体制の充実、専門家・報道機関・地域住民への教育や啓発、自殺と関連する疾患の予防などがあげられた。学校領域では、ハイリスク者に対するケア、友人関係によるフォローの強化、職員の訓練、専門機関との連携、学校全体としての自殺予防プログラムの実施などがあげられた。医療領域では、自殺念慮スケールやボランティアを活用した自殺未遂者へのケア、ハイリスク者に対するケア、自殺手段への接触減少のための教育があげられた。留置所では、自殺リスクの評価とハイリスク者の保護があげられた。

抄録を作成した 90 件の文献のうち、実際に自殺予防対策を実施し、その効果を検討した文献は 6 件であった。

#### ①職域における自殺予防対策（1件）

Berlim et al. (2006) による研究（文献番号 E-190）：大学病院に勤務する非臨床スタッフと臨床スタッフを対象に、自殺に関する教育を実施した。プログラム実施前後の自殺行動態度質問紙への回答を比較した結果、非臨床スタッフ、臨床スタッフともに自殺企図に対する態度や考えが改善された。

#### ②地域における自殺予防対策（2件）

Glatt et al. (1986) による研究 (文献番号 E-34) : 自殺が多発する場所に 24 時間サービス機関へとつながる電話を設置した。その結果, 1 年間で 10 回使用され, うち 9 例は履行前に医療機関へと運ばれた。1 例は履行したものの, 助けられ医療機関へ運ばれた。他に自殺例は 4 例あったが, いずれも電話を利用していなかった。

Mishara et al. (2005) による研究 (文献番号 E-173) : 自殺予防センターに電話をかけてきたハイリスクと思われる男性の家族や友人を対象とした。ランダムに 4 つのプログラム (自殺に関する教育, 自殺に関する教育と電話によるフォローアップ, 精神保健と虐待のプログラムへの迅速な紹介, 電話による支援) のうちの一つを案内した。プレテストと 2 ヶ月後のポストテスト, 6 ヶ月後のフォローアップ時のデータの比較から, ハイリスク者の自殺念慮・自殺企図, 抑うつ症状の有意な減少が認められた。

#### ③学校における自殺予防対策 (2 件)

Ciffone (1993) による研究 (文献番号 E-72) : 高校生を対象とした。自殺未遂事例と自殺既遂事例に関する短い映像を見せた後, 議論をさせた。ベースライン時に自殺に対して望ましくない態度を示した者において, プログラムの実施後に望ましい態度への変容がみられた。

Aseltine (2004) による研究 (文献番号 E-166) : 高校生を対象とした。ランダムに介入群と統制群にわけ, Signs of Suicide (SOS) プログラムを実施した。プログラムの内容は, 抑うつ・自殺のサイン, 抑うつ・自殺傾向のある者への対応に関する映像を見せた後, 議論をさせ, 質問紙により抑うつのスクリーニングを実施するもので

あった。介入群において, プログラム実施 3 ヶ月後に自殺企図率が減少し, 抑うつ・自殺に関する知識が増加した。また, 抑うつ・自殺に対する態度が改善された。

#### ④医療領域における自殺予防対策 (1 件)

Martz (1974) による研究 (文献番号 E-12) : 病院内に自殺予防部門を設置し, そのスタッフとしてボランティアを教育した。スタッフ一人が患者一人を担当し, スタッフは 7 時から 11 時まで患者とともに過ごし, 気分の変動や医療従事者に向けたレポートを書いた。その結果, プログラム開始からの 5 年間に於いて, 自殺予防部門の患者は 582 名であったが, 自殺者はいなかった。

#### D. 考察

地域, 職域, 学校領域, 医療領域において様々な自殺予防対策が提示されていた。抄録を作成した 90 件の文献中の過半数が, 地域を対象とした自殺予防対策に関する文献であった。複数の領域に共通してみられた自殺予防対策は, ハイリスク者のケア, 教育・啓発活動, ネットワークの構築の 3 つであった。

実際に自殺予防対策を実施し, その効果評価を行った文献は 6 件のみであった。このうち 3 件は, 特定の危険因子を有するものを対象としたハイリスクアプローチとして, ハイリスク者へのケアを実施していた。自殺多発地域にヘルプラインを設置したり, ハイリスク者の観察を行った結果, 自殺事例の発生を防ぐことができている。また, ハイリスク者本人に対するケアではないが, ハイリスク者の家族や友人に対する教育・支援により, ハイリスク者の自殺念慮や自

自殺企図、抑うつ症状が減少している。残る3件は、集団に働きかけて自殺率を低下させるポピュレーションアプローチとして、教育・啓発活動を実施していた。ビデオや講義により抑うつ・自殺に関する教育を行った結果、抑うつ・自殺に関する知識の増加や抑うつ・自殺に対する態度変容がみられている。また、抑うつ症状の減少もみられた。これより、総説的に提示された3つの自殺予防対策のうち、ハイリスク者のケア、教育・啓発活動に関しては、わずかだが効果評価がなされている。

自殺予防対策の効果評価の指標として用いられていたものは、ハイリスクアプローチでは自殺念慮・自殺企図であり、ポピュレーションアプローチでは抑うつ・自殺に関する知識や態度であった。抑うつ症状の程度はどちらのアプローチにおいても用いられていた。

職場における自殺予防対策としては、ハイリスクアプローチおよびポピュレーションアプローチともに実施可能である<sup>5)</sup>。しかし、職場に受け入れられやすいのはメンタルヘルス対策の一環としての実施であり、ポピュレーションアプローチの実施が主体となると思われる。その際の効果評価の指標としては、抑うつ・自殺に関する知識や態度、抑うつ症状の程度を用いるのがよいであろう。

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 高田未里. 日本の職場における自殺予防対策. 産業精神保健 2007 ; 15 (1) : 40-44.

2. 学会発表  
該当せず。

#### F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得  
該当せず。
2. 実用新案登録  
該当せず。
3. その他  
該当せず。

#### G. 参考文献

- 1) 本橋豊, 高橋祥友, 中山健夫他. STOP! 自殺—世界と日本の取り組み—. 東京: 海鳴社, 2006.
- 2) 荒井稔. 就業者における自殺の後方視的研究とその予防対策. 臨床精神病理 1991 ; 12 : 119-131.
- 3) 中央労働災害防止協会(編). 働く人のこころの健康づくり—指針と解説—. 東京: 中央労働災害防止協会, 2001.
- 4) Knox LK, Litts AD, Talcott GW et al. Risk of suicide and related adverse outcomes after exposure to a suicide prevention programme in the US Air Force. Brit Med J 2003 ; 327 : 1376-138.
- 5) 吉川武彦. 「自殺予防に向けての提言」をどう読むか. こころの健康 2003 ; 18 (1) : 78-82.

表1 医中誌Webによる文献検索結果(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域)

発刊年	総数	総説	解説	原著	症例報告	会議録
1983	0	0	0	0	0	0
1984	0	0	0	0	0	0
1985	0	0	0	0	0	0
1986	1	0	0	1	0	0
1987	2	0	0	1	0	1
1988	0	0	0	0	0	0
1989	0	0	0	0	0	0
1990	1	0	0	1	0	0
1991	1	0	0	1	0	0
1992	0	0	0	0	0	0
1993	0	0	0	0	0	0
1994	0	0	0	0	0	0
1995	0	0	0	0	0	0
1996	0	0	0	0	0	0
1997	0	0	0	0	0	0
1998	0	0	0	0	0	0
1999	1	0	1	0	0	0
2000	5	0	5	0	0	0
2001	2	0	0	1	0	1
2002	12	0	3	2	0	7
2003	19	0	16	1	1	2
2004	26	0	20	1	0	4
2005	14	1	9	4	0	1
2006	9	0	6	0	0	3

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域; suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
1	Kraus JF, Schaffer K, Chu L, Rice T.	Suicides at work: misclassification and prevention implications.	Int J Occup Environ Health	2005	11(3)	246-53
2	Clements PT, DeRanieri JT, Clark K, Manno MS, Kuhn DW.	Workplace violence and corporate policy for health care settings.	Nurs Econ	2005	23(3)	119-24
3	Roberts SE, Marlow PB.	Traumatic work related mortality among seafarers employed in British merchant shipping, 1976-2002.	Occup Environ Med	2005	62(3)	172-80
4	McFarlane J, Malecha A, Gist J, Watson K, Batten E, Hall I, Smith S.	Protection orders and intimate partner violence: an 18-month study of 150 black, Hispanic, and white women.	Am J Public Health	2004	94(4)	613-8
5	Thase ME, Salloum JM, Cornelius JD.	Comorbid alcoholism and depression: treatment issues.	J Clin Psychiatry	2001	62 Suppl 20	32-41
6	Rutz W.	Preventing suicide and premature death by education and treatment.	J Affect Disord	2001	62(1-2)	123-9
7	Wright S.	Look for the healer inside yourself.	Nurs Stand	2000	15(6)	22
8	Distasio CA.	Violence against home care providers--stop it before it starts.	Caring	2000	19(10)	14-8
9	Spiers C.	Suicide in the workplace.	Occup Health (Lond)	1996	48(7)	247-9
10	Hansen HL.	Surveillance of deaths on board Danish merchant ships, 1986-93: implications for prevention.	Occup Environ Med	1996	53(4)	269-75
11	Berman AL.	Suicide in the workplace.	Suicide Life Threat Behav	1993	23(3)	268-72
12	Tsai SP, Wen CP, Guo JP, Tsai SF.	Mortality trend in a rapidly developing economy in Taiwan. Part II: Life expectancy and "potential years of life lost".	Asia Pac J Public Health.	1991	5(1)	49-53

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域; suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
13	Doege TC, Holinger PC.	Understanding and preventing injuries.	Am Fam Physician	1990	42(3)	680-6
14	Stallones L.	Suicide mortality among Kentucky farmers, 1979-1985.	Suicide Life Threat Behav	1990	20(2)	156-63
15	川上憲人, 堤明純, 小林由佳, 廣川空美, 島津明人, 長見まき子, 岩田昇, 原谷隆史	事業場における心の健康づくりの実施状況チェックリストの開発	産業衛生学雑誌	2005	47(1)	11-32
16	荒井稔	産業領域におけるメンタルヘルス対策と精神障害について	精神神経学雑誌	2005	107(10)	1116-24
17	川人博	過労自殺をめぐる状況と課題	労働の科学	2000	55(3)	163-166
18	望月清隆	ある中高年者の自殺事例から	労働の科学	2000	55(3)	159-162
19	島悟, 長谷川恵美子	事例からみた職場での危機介入方策	労働の科学	2000	55(3)	150-153
20	坂田由美, 田中克俊	医師のストレス対処法	臨床麻酔	2005	29(1)	87-91
21	田島治	うつ病の薬物治療における現状と課題	臨床精神薬理	2005	8(4)	605-614
22	寺尾岳	ストレス社会のメンタルヘルスケア SNRIsとSSRIsを中心に	臨床精神薬理	2005	8(4)	599-604
23	中村純	勤労者の自殺とうつ病の現状	臨床精神薬理	2005	8(4)	583-584
24	中村純	職場におけるうつ病の早期発見と自殺予防	臨床精神薬理	2004	7(7)	1127-1132
25	尾崎紀夫	うつ病による自殺をいかに予防するか 職域におけるうつ病の早期発見と社会復帰を目指したサポート	臨床精神薬理	2004	7(4)	698-706

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域, suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
26	荒井稔	就業者における自殺の後方視的研究とその予防対策うつ病の事例を中心に	臨床精神病理	1991	12(2)	119-131
27	勝俣暎史	自殺の危機介入 自殺の危険因子の査定と介入	臨床心理学	2004	4(1)	47-51
28	黒木直夫	過労死・自殺と労災認定	予防医学	2000	42	51-56
29	作田英成, 稲葉伸実	自殺徴候への応急対処 後編(技術編)	防衛衛生	2004	51	別冊1-別冊7
30	下園壮太	自殺のアフターケアについて	防衛衛生	2003	50(10)	259-262
31	川人博, 山下敏雅	過労自殺の事例から 背景と予防	保団連	2006	899	18-25
32	川人博	過労死・過労自殺をなくすために	保団連	2004	803	28-34
33	山田和子, 平野かよ子	中小企業労働者の健康状態と事業場・自治体における対策	保健婦雑誌	2003	59(5)	422-426
34	河野啓子	産業保健における自殺予防対策	保健師ジャーナル	2004	60(12)	1196-1199
35	山田和子	地域における自殺予防対策	保健師ジャーナル	2004	60(12)	1186-1188
36	佐藤久男	自殺予防の実践例 社長の自殺を防ぎたい、NPO法人「蜘蛛の糸」の活動	保健師ジャーナル	2004	60(12)	1182-1185
37	高橋康弘	自殺の現状と自殺予防の取り組み	保健師ジャーナル	2004	60(12)	1158-1160
38	田中克俊	企業におけるうつ病対策・メンタルヘルス対策	日本精神科病院協会雑誌	2003	22(11)	15-19

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域, suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
39	平陽一	職場におけるメンタルヘルス不全の予防 産業医としての発生予防への関わり方	日本心療内科学会誌	2006	10(1)	23-29
40	永田頌史, 三島徳雄, 久保田進也, 清水隆司, 赤築綾子	職場における自殺予防対策 事例検討から	日本職業・災害医学学会誌	2002	50臨増	187
41	高橋祥友, 清水邦夫, 澤村岳人, 菅原摩利子, 福岡詳, 山下千代	最近のわが国の自殺の現状と予防対策	日本社会精神医学学会誌	2005	13(3)	145-154
42	山本晴義	職場のメンタルヘルスとうつ病	日本医事新報	2004	4200	9-11
43	加藤敏	現代日本における成人のうつ病 不安・焦燥型うつ病の増加	栃木精神医学	2004	24	25-31
44	島悟	ケーススタディ・メンタルヘルス 自殺念慮をもつ事例への対応	働く人の安全と健康	2003	54(11)	1089-1091
45	天笠崇	働き盛りの自殺を防ごう 職場環境と心の病 働くものの自殺	東京の精神保健福祉	2000		3-5
46	川野通夫	職場の健康管理とうつ病 とくに自殺の予防, 早期発見について	通信医学	1987	39(10)	642
47	渡辺睦子, 本橋豊, 小野剛, 藤原和貴子, 加藤祐子	秋田県大森町における心の健康と自殺予防対策事業の取り組み	地域医療	2005	44	625-627
48	三戸秀樹	職場における自殺予防の取り組み	大阪精神保健福祉	2003	48	56-73
49	人見佳枝, 田村善史, 向井泰二郎, 人見一彦, 坂田育弘	自殺企図に至る動機についての調査 経済的理由による企図を中心に	総合病院精神医学	2004	16(3)	250-256
50	鈴木童世, 成田智拓, 羽根由紀奈, 岩田仲生, 小野雄一郎, 尾崎紀夫	自己記入式質問紙法(Two-question case-finding instrument 二質問法&Beck Depression Inventory:BDI)の職場におけるうつ病スクリーニング法としての有用性検討	精神神経学雑誌	2001	103(12)	1111-1112

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域, suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
51	小泉典章	各立場からの復職への工夫 職場内での復職支援プログラム	精神科臨床サ―ビス6巻1号	2006	6(1)	44-47
52	高橋祥友	自殺とその予防	精神科治療学	2002	17増刊	272-282
53	中村純, 副田秀二	中年期・退行期 職場のメンタルヘルスを含めて	精神科治療学	2002	17増刊	243-248
54	黒木宣夫	臨床実践の視点から 労災とうつ病	精神科治療学	2002	17(9)	1111-1116
55	内藤宏, 鈴木竜世, 岩田仲生, 尾崎紀夫	職場におけるうつ病の早期発見と介入の試み	精神科	2003	3(5)	434-440
56	中村純	職場におけるうつ病の早期発見と介入	精神科	2003	3(5)	430-433
57	菅原真優美, 藤野邦夫, 関谷勝	労働者の自殺と職場におけるメンタルヘルス	新潟大学医学部保健学科紀要	1999	7(1)	47-63
58	上畑鉄之丞	過労自殺 実情と背景, 予防の可能性について	心療内科	2003	7(4)	298-303
59	永田頌史, 三島徳雄, 久保田進也, 赤築綾子, 昇淳一郎, 石橋慎一郎	職業性ストレスによる自殺の予防 事例検討結果から	心身医学	2003	43(8)	549
60	川人博	自殺予防のために, 業務上の過労・ストレスの軽減を	心と社会	2006	37(1)	37-41
61	島悟	うつ病による自殺と防止対策 企業のサイドから	心と社会	2006	37(1)	32-36
62	川上憲人, 廣尚典, 高橋祥友, 永田頌史	職場における心のケアと自殺予防	社会保障研究	2004	40(1)	26-35

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域; suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
63	加藤能男, 柴田洋子, 青木勇人, 他	精神分裂病者の犯罪の状態と予防に関する研究 精神鑑定例より	社会精神医学	1986	9(3)	271-279
64	荒武優	Q&A 自殺予防のポイントについて教えてください	治療	2004	86(3)	577-579
65	田中克俊	自殺予防に対する企業の取り組み	産業精神保健	2003	11(3)	259-262
66	厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課	自殺予防に対する行政の取り組み	産業精神保健	2003	11(3)	252-258
67	織田進, 内田和彦, 高田志保	自殺予防研究に関して	産業精神保健	2003	11(3)	243-251
68	黒木宣夫	過労自殺の労災認定	産業精神保健	2003	11(3)	236-242
69	戸津崎貴文, 古木勝也, 吉積宏治, 大里厚, 吉川里江, 織田進, 東敏昭	職域と自殺研究文献の動向 自殺関連文献データベースより	産業衛生学雑誌	2004	46臨増	507
70	上畑鉄之丞, 天笠崇	過労自殺事例からみた自殺防止に関する研究	産業衛生学雑誌	2004	46臨増	506
71	三島徳雄	職場における自殺予防マニュアル	産業衛生学雑誌	2004	46臨増	257
72	廣尚典, 荒武優, 小林祐一, 座間聡子, 深澤健二, 武田真紀, 田中克俊, 川上響人	職場における自殺予防対策の現状に関する検討(3)	産業衛生学雑誌	2003	45臨増	252
73	廣尚典, 佐藤恵美, 田中美由紀, 牧野純, 長尾まき子, 北村尚人, 森崎美奈子, 荒井稔, 中川茂昭, 黒木宣夫	職場における自殺予防対策の現状に関する検討(2)	産業衛生学雑誌	2002	44臨増	664

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域, suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
74	荒武優, 廣尚典, 亀田高志, 田中克俊, 鎗田圭一郎, 林剛司, 柱宗孝, 河野慶三, 荘司栄徳, 川上憲人	職場における自殺予防対策の現状に関する検討(1)	産業衛生学雑誌	2002	44臨増	663
75	永田焯史, 三島徳雄, 久保田進也, 清水隆司, 赤築綾子	事例から見た職場における自殺予防対策	産業衛生学雑誌	2002	44(5)	212
76	山田誠二	過重労働総合対策と面接指導の進め方	産業医学ジャーナル	2006	29(4)	38-46
77	和田攻	まず知っておくべきメンタルヘルスの基礎知識	産業医学ジャーナル	2003	26(4)	24-30
78	川上憲人, 榎村博康, 小泉明	職場におけるうつ病者の経過と予後	産業医学	1987	29(5)	375-383
79	石崎潤子	職場のメンタルヘルスと自殺予防体制のチェックリスト	産業ストレス研究	2005	12(4)	301-307
80	廣尚典	自殺未遂者の職場復帰支援のあり方に関する検討と産業保健スタッフ向け自殺防止マニュアルの改訂	産業ストレス研究	2005	12(4)	293-299
81	石崎潤子	職場のメンタルヘルスと自殺予防体制のチェックリスト	産業ストレス研究	2004	12(1)	51
82	高橋祥友	自殺発生後の対応について	産業ストレス研究	2004	11(3)	167-173
83	田中克俊	企業における自殺予防の取り組み	産業ストレス研究	2004	11(3)	163-166
84	三島徳雄, 永田焯史, 清水隆司, 久保田進也, 森田哲也	職場におけるうつ病・自殺予防マニュアル及び教育プログラムの開発	産業ストレス研究	2004	11(3)	155-162
85	廣尚典	産業保健スタッフ向け自殺防止マニュアルの開発について	産業ストレス研究	2004	11(3)	149-154

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域; suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
86	川上憲人, 堤明純, 小林由佳, 島津明人	事業場の自殺予防対策の立案とその評価	産業ストレス研究	2004	11(3)	141-147
87	高橋祥友	職場における自殺予防 postvention に焦点を当てて	産業ストレス研究	2003	10(4)	265-272
88	高橋祥友	職場の自殺予防 postvention に焦点を当てて	産業ストレス研究	2002	10(1)	37
89	永田娘史	職場における自殺予防 事例検討から	産業ストレス研究	2002	10(1)	36
90	天笠崇	過労自殺の実態から	産業ストレス研究	2002	10(1)	35
91	山脇成人, 岡本泰昌, 吉村靖司	メンタルヘルスクエア対策特別委員会 平成16年度 職場のメンタルヘルスクエアの推進(第3報) 管理監督者への啓蒙	広島医学	2005	58(12)	840-846
92	平陽一	Employee Relationship Managementの意義	健康管理	2005	610	6-27
93	吉田勝美	死因調査(一般)及び有病率の集計成績(II)	健康管理	2002	572	34-40
94	杉森裕樹	死因調査(一般)及び有病率の集計成績(I)	健康管理	2002	572	28-33
95	吉田勝美	死因調査(一般)及び有病率の集計成績(I)	健康管理	2001	559	19-22
96	黒木宣夫	自殺念慮者への危機介入	外来精神医療	2005	4(2)	6-10

表2 文献リスト(キーワード:自殺, 予防, 職場/職域, suicide, prevention, workplace)

No	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
97	天笠崇	事例分析を通して過労自殺の要因と予防を考える	医学評論	2004	105	18-25
98	黒沢尚	職場の心の病 自殺 実態とその予防	医学のあゆみ	1990	153(5)	234-237
99	小田晋	企業と心の危機管理	医学と医療	2003	429~430	16-27
100	小崎真規子, 前野哲博	初期研修医のストレス	レジデントノート	2003	5(3)	86-89
101	山本泰輔	ポストベンション(自殺後に遺された人々へのケア)	精神神経学雑誌	2006	特別	S237
102	島悟, 島袋恵美, 高野知樹	職場における一次予防	精神神経学雑誌	2006	特別	S236
103	天笠崇	過労自殺(自殺の実態を過労自殺裁判の立場から)	精神神経学雑誌	2006	特別	S236
104	川上憲人	対応迫られるストレスによる社会問題 職場のストレス	ストレス科学	2005	20(3)	122-129
105	渡邊直樹, 中路重之, 鳥谷都牧子	職域におけるストレス対策と自殺予防活動の実際	ストレス科学	2005	20(2)	74
106	影山隆之, 河島美枝子, 大賀淳子	地方公務員集団における婚姻状況およびストレスコーピング特性と自殺への「共感」 勤労者の自殺予防のための予備的検討	こころの健康	2005	20(2)	97-101
107	川人博, 山下敏雅	【自殺予防】 過労自殺	こころの科学	2004	118	56-61
108	黒木宣夫	【自殺予防】 自殺の労災補償と予防	こころの科学	2004	118	40-44
109	三澤仁	自殺の予見が困難であったCushing's diseaseの1例	こころのりんしょうa・la・carte	2003	22(4)	493-497

表3 アメリカ空軍における自殺予防プログラム

- 
1. 空軍司令部から常時, 指令
    - ・末端の指揮官に対する自殺予防の積極的なサポート
    - ・防御的要因の促進
    - ・危険因子の認識
    - ・コミュニティ活動として自殺予防を捉える
    - ・下士官に対して必要な時には助けを求めるように奨励
    - ・進行状況の報告や情報の提供
  2. カリキュラムの追加
    - ・精神的な不調者を見分けて適切に行動するための訓練
    - ・実際の自殺例に基づいたケーススタディによる訓練
  3. メンタルヘルスサービスの活用について
    - 指揮官のためのガイドラインの作成
    - 隊長に対するガイダンスの実施
  4. メンタルヘルスの専門家による空軍の職員全員に対する予防サービスの提供
  5. 空軍の職員全体に対する教育と研修
    - ・援助希求への偏見の低減
    - ・危機にある人の早期発見と専門家への相談・紹介
  6. 軍規違反などの法律的問題を抱えた人へのサポートの実施
  7. 危機的な出来事に際してのストレス管理
    - ・救援部隊・消防士・救急医療士への定期的な訓練
    - ・潜在的な危険のある環境下に配属された場合の訓練
  8. 予防活動の人事情報を一元管理するシステムの確立
  9. 自殺リスクの高い人の個人情報の保護
  10. 健康調査の実施
  11. 自殺行動のモニタリングシステムの確立
-

表4 文献リスト(キーワード:自殺予防プログラム/自殺予防対策; "suicide prevention program(s)" "suicide prevention manual(s)")

管理番号	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
E-1	McGee R	Report of a regional workshop.	Bulletin of Suicidology	1967	Dec	43-45
E-2	McGee R K	Community mental health concepts as demonstrated by suicide prevention programs in Florida.	Community Mental Health Journal	1968	4(2)	144-152
E-3	Thomson C P	Suicide prevention in a rural area.	Bulletin of Suicidology	1968	Jul	49-52
E-4	Haughton A	Suicide prevention programs in the United States: An overview.	Bulletin of Suicidology	1968	Jul	25-29
E-5	Haughton A B	Suicide prevention programs---the current scene.	American journal of psychiatry	1968	124(12)	1692-6
E-6	Weiner I W	The effectiveness of a suicide prevention program.	Mental hygiene	1969	53(3)	357-63
E-7	Potter M C	The nurse as community crisis counselor.	Nursing Outlook	1969	17(9)	39-42
E-8	Noyes R	Shall we prevent suicide?	Comprehensive Psychiatry	1970	11(4)	361-370
E-9	Lester D	Geographical location of callers to a suicide prevention center: note on the evaluation of suicide prevention programs.	Psychol Reports	1971	28(2)	421-2
E-10	McGee R K	Suicide prevention programs and mental health associations.	Mental hygiene	1971	55(1)	60-67
E-11	Daubs J	The mental health crisis in ophthalmology.	American Journal of Optometry & Archives of American Academy of Optometry	1973	50(10)	816-822
E-12	Martz B M	The use of volunteers in a suicide prevention program at a private psychiatric hospital.	Hospital & Community Psychiatry	1974	25(10)	643 & 651

表4 文献リスト(キーワード:自殺予防プログラム/自殺予防対策; "suicide prevention program(s)" "suicide prevention manual(s)")

管理番号	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
E-13	Winnik H Z	On suicide.	Mental Health & Society	1976	3(3-4)	175-177
E-14	Reich P K, Martin J	Suicide attempts by hospitalized medical and surgical patients.	New England journal of medicine	1976	294(6)	298-301
E-15	Snyder B J	A note on the importance of cultural factors in suicide studies.	Suicide and Life-Threatening Behavior	1977	7(4)	230-235
E-16	Rohn R D, Sarles R M, Kenny T J, Reynolds B J, Heald F P	Adolescents who attempt suicide.	Journal of pediatrics	1977	90(4)	636-8
E-17	Auerbach S M, Kilmann P R	Crisis intervention: A review of outcome research.	Psychological Bulletin	1977	84(6)	1189-1217
E-18	Tsuang M T	Genetic factors in suicide.	Diseases of the Nervous System	1977	38(7)	498-501
E-19	Sonneck G Ringel E	Suicide prevention and the community: A state institute for suicide prevention and crisis intervention.	Mental Health & Society	1977	4(1-2)	80-84
E-20	Fox R	Suicide prevention in Great Britain.	Mental Health & Society	1977	4(1-2)	74-79
E-21	Hagnell O, Rorsman B	Suicide and endogenous depression with somatic symptoms in the Lundby study.	Neuropsychobiology	1978	4(3)	180-187
E-22	Gaines T Jr, Skaer W K	A suicide prevention program for basic military trainees.	Military medicine	1979	144(9)	623-4
E-23	Brown J H	Suicide in Britain. More attempts, fewer deaths, lessons for public policy.	Archives of general psychiatry	1979	36(10)	1119-24
E-24	Cutter F	The relation of new Samaritan clients and volunteers to high risk people in England and Wales (1965-1977).	Suicide and Life-Threatening Behavior	1979	9(4)	245-250

表4 文献リスト(キーワード:自殺予防プログラム/自殺予防対策; "suicide prevention program(s)" "suicide prevention manual(s)")

管理番号	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
E-25	Ross C P	Mobilizing schools for suicide prevention.	Suicide and Life-Threatening Behavior	1980	10(4)	239-243
E-26	Pierce D W	The predictive validation of a suicide intent scale: A five year follow-up.	British Journal of Psychiatry	1981	139	391-396
E-27	Khuri R, Akiskal H S	Suicide prevention: The necessity of treating contributory psychiatric disorders.	Psychiatric Clinics of North America	1983	6(1)	193-207
E-28	Dashef S S	Active suicide intervention by a campus mental health service: Operation and rationale.	Journal of American College Health	1984	33(3)	118-122
E-29	McIntosh J L	Components of the decline in elderly suicide: Suicide among the young-old and old-old by race and sex.	Death Education	1984	8(Suppl)	113-124
E-30	Rakis J	Suicide prevention measures in urban detention facilities throughout the United States.	Journal of Prison & Jail Health	1984	4(2)	91-95
E-31	Boldt M	A systematic and integrated interagency model for providing coordinated and comprehensive suicide prevention services.	Crisis: The Journal of Crisis Intervention and Suicide Prevention	1985	6(2)	106-118
E-32	Godwin D W	Adolescent suicide.	Journal of Police Science & Administration	1986	14(1)	67-75
E-33	Jacobsson L, Renberg E	Epidemiology of suicide in a Swedish county (Vasterbotten) 1961-1980.	Acta psychiatrica Scandinavica	1986	74(5)	459-68
E-34	Glatt K M, Sherwood D W, Amisson T J	Telephone helplines at a suicide site.	Hospital & Community Psychiatry	1986	37(2)	178-180
E-35	Levy J E, Kunitz S J	A suicide prevention program for Hopi youth.	Social Science & Medicine	1987	25(8)	931-40
E-36	Streiner D L, Adam K S	Evaluation of the effectiveness of suicide prevention programs: a methodological perspective.	Suicide and Life-Threatening Behavior	1987	17(2)	93-106

表4 文献リスト(キーワード:自殺予防プログラム/自殺予防対策;“suicide prevention program(s)”“suicide prevention manual(s)”) )

管理番号	著者	タイトル	雑誌	年 号	ページ
E-37	Valente S M, Saunders J M	High school suicide prevention programs.	Pediatric nursing	1987	108-12 & 137-9
E-38	Peck M L, Berkovitz I H	Youth suicide: The role of school consultation.	Adolescent Psychiatry	1987	511-521
E-39	Schwartz A J, Reifler C B	College student suicide in the United States: Incidence data and prospects for demonstrating the efficacy of preventative programs.	Journal of American College Health	1988	37(2) 53-59
E-40	Martin E	Failure of suicide prevention measures at Risley.	BMJ: British Medical Journal	1988	297(6646) 483
E-41	Garland A, Shaffer D, Whittle B	A national survey of school-based, adolescent suicide prevention programs.	Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry	1989	28(6) 931-4
E-42	Rakis J, Monroe R	Monitoring and managing the suicidal prisoner.	Psychiatr Q	1989	60(2) 151-60
E-43	Takahashi Y	Suicidal Asian patients: recommendations for treatment.	Suicide and Life-Threatening Behavior	1989	19(3) 305-13
E-44	Funderburk J R, Archer J	The campus cares: A Suicide Prevention Project.	Journal of College Student Development	1989	30(3) 277-279
E-45	Garfinkel B D	The components of school-based suicide prevention.	Residential Treatment for Children & Youth	1989	7(1) 97-116
E-46	Herbert M	The Fairfax County Suicide Prevention Program: A public school system responds.	Residential Treatment for Children & Youth	1989	7(1) 89-96
E-47	Shaffer D, Vieland V, Garland A, Rojas M, Underwood M, Busner C	Adolescent suicide attempters. Response to suicide-prevention programs.	JAMA	1990	264(24) 3151-5
E-48	Trimble R W	Campus suicide prevention: Issues for the counseling center director.	Journal of College Student Psychotherapy	1990	4(3-4) 165-178

表4 文献リスト(キーワード:自殺予防プログラム/自殺予防対策; "suicide prevention program(s)" "suicide prevention manual(s)")

管理番号	著者	タイトル	雑誌	年	号	ページ
E-49	Tierney R, Ramsay R, Tannev B	Comprehensive school suicide prevention programs.	Death Studies	1990	14(4)	347-370
E-50	Whitaker L C, Slimak R E	Conclusions and recommendations: College student suicide.	Journal of College Student Psychotherapy	1990	4(3-4)	211-217
E-51	McNamee J E, Offord D R	Prevention of suicide.	CMAJ	1990	142(11)	1223-30
E-52	Overholser J, Evans S, Spirito A	Sex differences and their relevance to primary prevention of adolescent suicide.	Death Studies	1990	14(4)	391-402
E-53	Lawrence M T, Ureda J R	Student recognition of and response to suicidal peers.	Suicide and Life-Threatening Behavior	1990	20(2)	164-76
E-54	Stallones L	Suicide mortality among Kentucky farmers, 1979-1985.	Suicide and Life-Threatening Behavior	1990	20(2)	156-63
E-55	McDaniel W W, Rock M, Grigg J R	Suicide prevention at a United States Navy training command.	Military Medicine	1990	155(4)	173-175
E-56	Leenaars A A, Wenckstern S	Suicide prevention in schools: An introduction.	Death Studies	1990	14(4)	297-302
E-57	Lester D	Suicide prevention in the schools: A cautionary note.	High School Journal	1990	73(3)	161-163
E-58	Berger C J, Tobeluk H A	Community-based suicide prevention programs in rural Alaska: self determination as a new approach.	Arctic medical research	1991	Suppl	291-3
E-59	Kalafat J, Neigher W D	Experimental and pragmatic approaches to the incidence of adolescent suicide.	Evaluation and Program Planning	1991	14(4)	377-383
E-60	Silbert K L, Berry G L	Psychological effects of a suicide prevention unit on adolescents: levels of stress, anxiety and hopelessness: Implications for counselling psychologists.	Counselling Psychology Quarterly	1991	4(1)	45-48